

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 21 年度 第 2 回高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	平成 21 年 12 月 25 日（金） 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
開 催 場 所	高松市役所 11 階 114 会議室
議 題	(1) 高松市地球温暖化対策実行計画(案)の骨子について (2) 温室効果ガスの排出量について (3) アンケート調査の結果について (4) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	17 人 嘉門会長，熊副会長，泉川委員，井上委員，片山委員，勝浦委員，河崎委員，川原委員，鬼無委員，白井委員，関委員，多田委員，野田委員，古川委員，松本委員，山田委員，横山委員
欠席委員	1 人
傍 聴 者	2 人 (傍聴席：10 席)
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 (Tel 0 8 7 - 8 3 9 - 2 3 9 4)

審議経過および審議結果
協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 次のとおり、協議会を開催した。 (1) 高松市地球温暖化対策実行計画（案）の骨子について (事務局より説明) 以後審議 (会 長) 削減目標についてであるが、排出量を見ながら出来るだけ努力し、どの程度取り組みばどの程度削減できるのかを想定して目標設定しなければならない。ただ、高めに設定する必要があるが、国の施策とも絡む話でもあるので、この件に関しては次回以降、議論したい。 また、各委員に配られている意見を書いてもらう宿題だが、どういうことをしたら効果がどのくらい上がるのかという、一人一人が実感できるような具体的な対策を書き込んでもらったらいと思う。 (委 員) 第 1 章に「地球温暖化による影響」とあるが、実際にどういった影響が起こるか具体的に分かるものを掲載したらいいと思う。

審議経過および審議結果

(事務局)

公表されている情報の中から検討し、掲載していきたいと考えている。

(委 員)

地球温暖化対策は、耐えることというイメージを持ってしまう。地球温暖化は避けて通れないので、低炭素社会に向けてライフスタイルを変えることによって、現在の社会とは違う社会になり、その先には日本が進むべき方向があるというところがあったらいいと思う。

(委 員)

第3章で社会的特性というのがある。これから技術革新が進んでいき、暮らしがどのように変化していくのか。もったいない精神で古い電気製品をずっと使うことが、果たして問題ないかということを考えたときに、将来的な展望があったら、感覚を変えていく目安になるのではないか。

また、短期・中期・長期とあるが、世界、日本の動きが地域にどのように関連していくか、暮らしと技術革新と社会状況がどのように変化していくのかが前段にあったらいいのではないか。

(2) 温室効果ガスの排出量について

(事務局より説明)

以後審議

(委 員)

民生業務部門の、エネルギー源別排出量の比率は分からないのだろうか。それによって、ターゲットをどう低炭素化するかということになってくると思う。

(事務局)

データを整理し、さらに補足するようなデータを示したい。

(会 長)

資料8ページでいうと、公共サービスが非常に多いというのが分かる。

(委 員)

全国の同じような市と比較できるような算出方法をお願いしたい。

(事務局)

他の中核市では、これから現況推計を行うところが多いようなので、現段階では他市との比較は難しい。香川県が新たな計画策定に取りかかると思われるので、県と特に連携を図り、整合性を取りながら進めていきたい。

(委 員)

香川県では現行の計画期間が来年度で終了するので、来年度中に計画を作ることとしている。環境省が示したマニュアルを参考にしながら現況の算定、将来的な推計をする作業を始めているところである。他市との比較という話だが、マニュアルがあっても全国が同じ算定方法をするわけではないので、単純に比較することは非常に難しい。各自治体が現状をきちんと把握して、その推移を継続的に把握できる数字で作っていくのが一番と考えている。

(委 員)

審議経過および審議結果

地域性により、住民の電気の使い方、暮らし方が違うなど、数字では見えない部分があるので、市民にも分かるように表現していくことが大切である。

(会 長)

排出量の推移などの理由が市民にも分かってもらえるような実行計画になれば、モチベーションが上がり、結果的に効果にもつながってくる。

(委 員)

運輸部門に関して、排出量の算定方法はOD調査データ等を使用してとなっている。営業トラックに関して言うと、低燃費車の導入や省エネ運転等、走行距離に関係の無い部分での環境対策を進めている。それによる効果が排出量に反映されていないのではないかと思いますので、検討してもらいたい。

(事務局)

そのような取組が原単位に反映できるか現状では答えられないが、可能であれば反映させたい。

(委 員)

製造業からの二酸化酸素排出量が大幅に下がっているが、どういう理由でこんなに減っているのか。

(事務局)

該当する石炭製品を消費していた一部の事業所の出荷構成が「鉄鋼・非鉄・窯業土石」から「化学・化繊・紙パルプ」に変更になったことが原因である。それにより、業種分類が変更になった。

(委 員)

小中学校の3、4階の教室の夏の気温はこの2、3年特に暑く、もちろん窓は開けているが、40℃くらいになる。図書室とパソコン室はだんだんクーラーが入ってきているが、全部ではない。一日一時間くらいは涼しく勉強をさせてあげたいという要望を持っている。このあたりは考慮してもらいたい。

(会 長)

民生家庭部門・業務部門の温室効果ガス排出量が高松市だけではないと思うが非常に多いと聞いている。各家庭だけではなく、市として一体的に取り組まなければいけないだろう。

(3) アンケート調査の結果について

(事務局より説明)

以後審議

(委 員)

回答者の属性に関して、年齢が60歳以上という区分では大きすぎる。60代と70代ではライフスタイルが異なるので、60代、70代、出来れば80代と分けたほうがいいのか。

(事務局)

今回のアンケート調査に当たっては、60歳以上という区分で抽出したため、70代の人数等は把握できない。今後アンケートを実施する場合は、更なる年齢の細分化を検討し

審議経過および審議結果

ていきたい。

(委 員)

総じて市民がすごく真面目で前向きなところが出ているが、実現可能な目標を定めていただきたいという意見が多い。私の意見としては2, 3年という期間において、無理のない範囲でこの期間はこれをするというものがあり、少しずつ目標を上げていくという姿勢を持てたらいいと思う。

もう一つは、経済的な負担を恐れて取り組めないというところを、事業者の方に投資することで次の事業がやりやすくなるとか、いい関係になるようなPR, 啓発をしてほしいと思う。

(事務局)

一点目の2, 3年おきに見直しを行うことに関してだが、2012年の短期から中長期の目標もある。進捗管理については、この推進協議会に諮っていくこととしているので、状況を見ながら新たな事業展開を考えていくという風になると思う。

二点目の事業所への啓発という点だが、温暖化対策を進める上で、太陽光パネルであれば何年すれば元が取れるなど、そういったコストの観点からも普及が進むような啓発活動を考えていく必要があると思う。

(会 長)

省エネ改修をすればどのくらいCO₂を削減できるか、そういう具体例も提示したら取り組みやすいだろう。

(委 員)

京都議定書では、数値目標に森林等による温室効果ガス吸収量を算入することとしているが、森林、農作物を作ることが、どれだけ二酸化炭素の吸収に貢献しているのか知りたい。具体的な吸収率を明らかにしていくことで、例えば100年後、どれだけの効果が現れたのか分かるのではないか。

また、市民は、市に対してこういうことをしなければいけないと期待をしているにも関わらず、自ら動くようなシンポジウムや講習会への開催や活動しているNPO等の情報を知りたいという回答が少なく、保守的であることが分かる。この部分は啓発をするべきだと思った。

(会 長)

森林保全については、非常に意識は高いが、健全な森林でなければ、CO₂の吸収効果がない。また、老木はあまりCO₂を吸収できない。吸収量を含めて削減量を出していくのかということを含めて、データを整理していくという意見だと思う。

木の二酸化炭素吸収効果は高いが、高松市の面積における二酸化炭素吸収量を概算すると、全体の排出量に対しては僅かであるので、この点を含めて検討しなければならない。

(委 員)

温暖化に対する市民の意識は高いが、その割に二酸化炭素排出量は横ばいである。ということは、知っているけれどやっていないということだ。電気の使用量をどれだけ減らすかなど、具体的な方法を市民に示さなければならない。事業所についてはISOやCSR, 条例などで厳しくなっているので努力はしているが、大手だけである。中小企

審議経過および審議結果

業に対してはどのようにして意識を引き上げるか、具体的に目標を示す必要があると思う。

また、低炭素社会づくりには、3R、循環型社会、自然と共生した社会づくりなど全てがリンクする必要がある。具体的に方針を示し、市がリーダーシップをとっていかなくては、市民は動かない。どのように指導をしていくのが大事だと思う。

(委 員)

技術革新の話が出たが、新しいよりよいものを使うことが経済効果にもなるし、雇用の問題にも繋がっていく。トータル的に考え、これを切り口にしたら、すごいまちづくりができるのではないかな。総合計画や都市計画との整合性や位置づけなど、横の連携が非常に重要でないかと思う。

(4) その他

(事務局)

今後、計画に登載する対策、施策の検討をしていく上で、委員皆様が「地球温暖化対策として、こういう取組をしたら良いのでは」という考え等があれば、配布した用紙に記入の上、送付いただきたい。

(会 長)

本日の会議はこれをもって終了する。

以 上